慰霊碑は広い芝生内にある（アワーグラス新聞社撮影提供）

マーシャル方面遺族会
（旧クェゼリン方面戦歿者遺族会）
郵便番号 154
世田谷区野沢3—11—3
電話 東京（424）4300
振替口座東京0-93487番
編集兼発行人　浮田信家

ドワイト・ハイネ特別補佐官のお話

浮田さんの御挨拶にもありましたように、今から十年前私がマーシャル諸島支庁長当時、始めて浮田さんにお目にかかり、又三年前にはグァム島で皆様とご一緒に再会の機会を得ることができました。

私は皆様方のヒューマニティ（人情）に徹した行動に、深い感銘を覚えるものであります。そして今日また私の任地であるサイパンで皆様にお目にかかることが出来て非常に喜んでおります。

マーシャル諸島では、妻は夫より数歩あとから歩くのが慣習となっております。それは外でもありません。路上で敵に襲われたとき、まづ夫がこれに立ち向うためでありました。幸いここはサイパンですから、只今私は妻と連れだってここに参れたわけであります。

御承知のとおり、グァム、トラック、ポナペ、マジュロなどのミクロネシア諸島は、それぞれの地域によって、特殊の文化と習慣を有し、また歴史的にもスペイン、ドイツ、日本アメリカの影響を受け、更に結婚を通じて、人種的にも交り合っております。

現に私の父はドイツ人でしたので、「ハイネ」というドイツ人の姓をもっているわけです。私の妻はニューギニアの出であり、私たちは二人の息子と七人の娘にめぐまれておりますが、息子の一人は戦争前、すなわち南洋諸島が日本時代でしたので「ミチオ」という名前をつけ、娘の一人はアメリカの信託統治になってから生れましたので「マリリン」と名付けました。マリリン・モンローのマリリンです。

このように地域によって特殊の文化、習慣をもちながら混然一体となった共通性も生れております。私どもは、相異点は相異点とし、共通点を地盤として、友情をつちかい、平和への道を歩みたいと思っております。

ここで一番大切と思いますのは人情であります。一度友を得ますと、何とかして再会の機会を探し求め、或はその想い出、追憶に常に耽るのであります。

いつの日か、また皆様にお合いできる日を楽しみにしているわけであります。

（53年9月2日、サイパンの昼食会で）

目次

ドワイト・ハイネ特別補佐官のお話……(1)
第三回現地墓参団の足跡
……事　務　局(2)
……東京都　田中　猛(2)
現地墓参体験文集（概ね50音順）
……北海道　三関　武治(3)
……〃　今立　文朗(3)
……東京都　三ッ木正次(3)
……〃　伊藤ますの(4)
……広島県　浦手　ハル(4)
……〃　奥井　礼子(4)
……〃　大上八重子(5)
……神奈川県　片山　計(5)
……福岡県　金子庄之助(6)
……京都府　川本　彦次(6)
……〃　川本　玲子(6)
……東京都　小泉　文江(7)
……栃木県　菊地　彦亘(7)
……東京都　鈴木つな子(8)
……島根県　園山　和子(8)
……福島県　富田　みつ(9)
……静岡県　服部くにゑ(9)
……東京都　長谷川智子(10)
……〃　水野　はな(10)
……〃　山口　良二(11)
……静岡県　山田　登世(11)
……千葉県　渡辺　朝子(11)
サイパンに偲う……浮田　桜代(12)
海征かば…東京都　佐藤　宗丕(12)
ブラウン環礁の遺骨収骨が中止となった顛末…事　務　局(15)
中部太平洋地域の戦跡
慰霊巡拝団帰る…事　務　局(13)
昭和54年2月6日（火）……(14)
慰霊祭＝六日
報告会＝六日
直会旅行＝六・七日
寄付者芳名……(15)
事務局だより……(16)

第三回現地墓参団の足跡
マジュロ、クェゼリン、サイパン

事務局
東京都　田中　猛

準　備

この計画は環礁28号で発表して57名の希望者があったので一月中旬から具体的の計画をはじめた。旅行業者については、大手と考えた三社の見積書によって今回は近畿日本ツーリスト社を選んだ。そして8月11日出席可能な参加会員すべてと旅行社の関係者に東京信濃町の東医健保会館に集合を願い、説明会を行った。

経過の概要

第一日　昭和53年8月28日（月）

一一三〇　靖国神社に集合。出発奉告のため全員昇殿参拝、終って御神酒、お守りをいただき退下の際に松平宮司から励ましの御挨拶を頂戴した。これから添乗員の引率により貸切バスで成田空港に向う。車中昼弁当。懸念された途中の検問所も容易に通過し成田日航ホテル着。夕食時結団式、説明会そして自己紹介。30余年待った現地墓参への出発を明朝にひかえ感無量。

第二日　8月29日（火）

天気晴朗。バスで空港ターミナルへ。出国手続。供花用菊の植物検査。酒、煙草ほかお供物、お土産等免税品の購入。

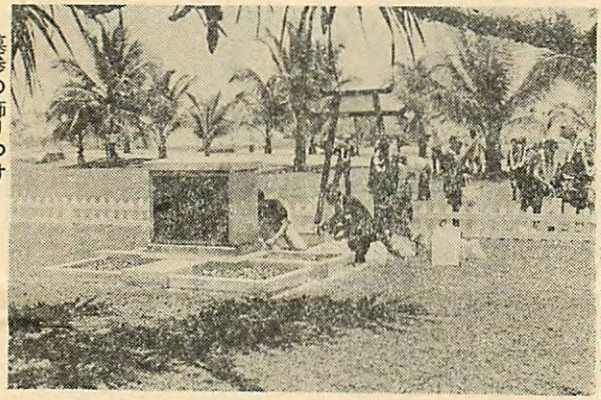
○九三〇　コンチネンタル航空622便ボーイング727機でサイパンに向け発。途中台風圏内を通過したらしく暫時は揺れながら、約三時間でサイパン着。雨。はじめての椰子の木珍らし。滞地20分余、グァムに向け発。グァム迄25分。ここで飛行機をのりかえる。次の寄港地トラック島には4時40分着。日没をポナペ着前に見る。次はクェゼリン。ここに眠る肉親の冥福を祈り午ら10時40分発。マジュロ空港に11時45分到着した。入国の諸手続を了えて、空港ゲートを出たのは12時をかなり過ぎていた。そこには私達を迎えに来て下さった島の方々が大勢手に手に美しい花のレイをもち私等全員に何本もかけて下さったのに驚いた。アジドリックホテル、イースタンゲートウェイホテル、ホテルマジュロの3ホテルに分れマジュロの第一夜を迎えた。

第三日　8月30日（水）

スコールに洗われたらしく、素晴らしく爽かな朝。朝食後十時の温度40度。山村さん御夫妻が同乗して、スクールバスでローラ岬にドライブ。海岸で昼食、水泳等。日本時代の暴風雨の記念碑や、戦争中我軍の不時着機残骸は淋しさの中に親しみが感じられた。夜は日系島民すべてのお招きで海岸での歓迎パーティーに出席。心のこもった郷愁に満ちた雰囲気に感激した。

第四日　8月31日（木）

今日もスクールバスで北のリタ地区から南のダラップ地区まで市街の見学。支庁、裁判所、警察、郵便局、病院、消防署、気象台、高校、小学校、銀行、新聞社、劇場、ホテル、レストラン、商店街などなど。夜は昨夜のお返しにマジュロ第一のレストランにお招きして親善パーティーを行った。来客百人余。談笑に夜の更けるのも知らず満足を得た。



墓参の飾りつけ
（アワーグラス社撮影提供）

第五日　9月1日（金）

成田からマジュロまでの旅の疲れも癒やされ晴やかな気持ちで11時54分マジュロ発。空港には多数の島民の方々がまたもレイをかけて別れを惜しんで下さった。機上40分、待望のクェゼリン空港着。大里様、中田様はじめ多くの方々がバスを飛行機のそばまでつけて迎えに来て下さり、墓地に運ばれた。お花が沢山供えられ、墓地内外の清掃は行きとどいており、一同感激の至り。

墓前の光景は各員の記事に譲る。うしろ髪を引かれるとはこのときのためにつくられたように思われたが飛行機に戻り、ポナペ、トラック、グァムを後にしサイパンのコンチネンタルホテルに一泊した。

第六日　9月2日（土）

好天。午前は観光バスで戦跡見学。（12頁佐藤副会長の海征かば参照）

昼食はレストラン。

ドワイト・ハイネさん夫妻出席。同氏は昭和42年浮田会長等現地派遣の時のマーシャル諸島支庁長、現在太平洋信託統治領政府の特別補佐官。

一七三〇　サイパン発
一九四五　成田着

むすび

終始事故なく予定どおり全員が無事帰れたのは諸英霊のご加護によるの外なく御同慶の至りである。

現地墓参体験文集

北海道　三関武治
今立文朗

浮田会長さん、佐藤副会長さん、そして、83歳の私、三関を同行して下さった団員の皆さん！ほんとうにありがとうございました。

この度の墓参は、数カ月間の綿密な準備と計画によって万全な手配をされおかげさまですべて順調に取り運び所期の目的を充分に果したこと、御同慶に堪えません。

正直に申しますと、私は、戦争に負けた国の人間であること、行先が戦争のためご迷惑をかけた所であることなどから、若干の心配をしておりましたが現地に着いてみて、私の心配が全く意味のなかったことを知りました。

マジュロに着いた夜のお出迎え、翌日の島内見学、そしてその夜の歓迎パーティー等々、全く予想もしなかったご厚意に只々驚きと感謝で胸が一杯になりました。特に、島の方々が、「君が代」を合唱しようといって下さったことに感激しました。我が耳を疑った程でありました。

クェゼリン島は、米軍の機密基地で一般の乗客は機内に閉じこめられ、その上窓のカーテンも閉ざされたのに、私どもだけが基地の真中の墓地に、而もバス迄用意下さったこと。定期便の飛行機の出発を遅らせて下さったこと。すべてありがたいの一言です。

今回、マジュロ、クェゼリンの他に、玉砕地サイパン島の戦跡めぐりをして見聞を拡め、名案内人の真心のこもった説明を聞くことのできたのも大きな収穫でした。こんな立派な遺族会は外にないと思います。何時迄も活動をつづけて下さい。

生き残り島民の話

東京都　三ツ木正次

今回の墓参の詳細については、いろいろの方が書かれると思われるので、ここではクェゼリン島で生き残った一人の島民の話を、伝えさせて頂くことにする。

マジュロ島からクェゼリンまでの機中でたまたま席を隣り合わせたのが、その人との出合いであり、「墓参ですか」と話しかけられたのが話の発端である。

その人は一九一五年クェゼリン島で生まれ、パラオの木工養成所で2年、更に研究科に進んで1年、大工の修業を積み、ヤルート島で大工をしていたが、クェゼリン島に日本軍が多数来るようになってから再び来島し、日本軍の諸施設の建設や修理に当っていた。当時接触した人々の中で名前を覚えているのは吉田一等兵と機械関係の仕事をしていた加来さんである。

米軍の空襲があるようになってから自分の手で防空壕を作ったが、その場所は今のターミナルビルのすぐ横で今も舗装されずに残っている所である。昭和19年の1月末頃これまでにない激しい空襲があったので七人の子供を含め34人が壕に入った。何分にも狭いので全員たったまま飲まず食わず丸三日入っていたが、飲物を求めて外に出ようとした途端、米軍から銃撃を受け、また壕にもぐり続け、一週間目にたまりかねて米軍に投降した。すると今度は日本軍から銃撃を受けたが、辛うじて34名全員生き残った。当時の島民（その人の言葉では「土人」）500人位のうち200人位が生き残り、朝鮮人は800人位生き残ったと思う。

現在はエビゼ島に住み、ホテルを営み雑貨の商もしている。同島には約七千人の島民が居り、うち800人位がクェゼリンの基地に勤務し、朝夕定時に軍の船で往来している。

以上がその人がややたどたどしくなった日本語に英語を交えてポツリポツリと話してくれたところをメモに基いてまとめたものである。クェゼリンで降りる間際、日本の文字もまだ少し読めると言って、私がメモに使っていた渡航者手帳の右横書きの表紙に目をやって「帳」「手」と読み出した。なるほど当時は左横書であったことを思い出した次第である。

その人は63才ということであるが、かなり老けて見え、深くきざまれたしわに戦前、戦中、戦後を通じての数奇な運命と辛苦を見る思いであった。その人は mr. Handel J. Oribo である。

因みに今回の墓参の際クェゼリンの大里様から頂いた米軍側の戦斗資料によると激しい空襲の始まったのは1月29日ということであるので2月4日にもなお散発的であれ島の中央附近でも日本軍の抵抗が行われていたことになる。

末筆ながら今回の墓参に大変な御苦労をおかけした会長始め役員、事務局の方々に心からお礼を申し上げるとともに、墓参が今後共観光に堕することなく信仰の自由を妨げることなく続けられんことをお祈りします。

附記（浮田）

mr. Handel J. Dribo は昭和42年8月私達派遣員としてエビゼにいったとき地主であり映画館主であった mr. Dribo に世話になりかつ自宅改築の基礎工事の際発掘した20才前後の少年兵4体の遺骨を受け全部もち帰った記憶がある。立派な人であった印象も深い。

夫の苦戦を偲ぶ

東京都　伊藤　ますの

帰京後すぐ郷里長野に帰りました。マジュロから連れて来た宿借が二匹、夜になるとコトコトと音をたてて動いています。南の国から甦って来た夫と一緒に居るような錯覚をおこし、大事に育てています。

墓参が叶えられ本当にありがとうございました。30年前から一度は墓参りがしたいと願っていても、あんな遠い海のかなたに行けようとは、夢にも思えませんでした。

島の人達の親切、言葉こそ通じにくいが、心の中まで感じて、今でも思い出すと自然に涙が流れて来ます。

夫はどんな思いで戦死したのか、あの島に立って、この目で見たような気がしました。あの頃は暑いのに扇風機などなかったでしょうし、蟻や蜥蜴が部屋の中まで来たと聞きました。

食べるものは、慣れた人ならよろしいのでしょうが、日本人には合わないものばかりだったと聞きました。

マジュロでは、皆さんが日本の歌を歌って下さったのには驚きました。涙の出る想いでした。野外でのパーティーにも招いて下さいました。マジュロがクェゼリンであったらとも思いました。

何といってもお墓参りのできたのは会長はじめ役員の方々のおかげでした。重ねて御礼申します。

◇

黒人にまごう島人も野外パーティーに
共に君が代　心なごみ

◇

永住したき程に思いし島は米軍の基地
心残して　夕日を見る

◇

二度と日本に帰れめと思いで行きし島
たった一時の出逢

◇

クェゼリンに行くべく待機せし
島人のもてなしに心なごみて

◇

蟻ぜめと暑さで頭がおかしく成るかと
思いしが、夫を偲び只涙

◇

三十八キロ続く島にココナッ実り
島人の食糧と聞き

◇

墓参もすみて背もかろく機上より
赤き夕日はサイパンあたりへ

◇

長年の夢かないてクェゼリンの
墓参すませて見る夕日赤く

◇

島人は近寄りがたしと思いしに
握手をすればぬくみ残りて

広島　浦手　ハル

永年念願したクェゼリン島墓参を叶えさせて頂きありがとうございました。本会をここまで育てられた方々の御苦労を深く感謝いたします。

いよいよ出発の日が来て、日本を後に、一路サイパン、グァム、トラック、ポナペ経由、マジュロに着きました。そこでは、沢山の島民の方が、手に手に美しいレイを持って出迎えて下され本当に嬉しく感動しました。

ローラ岬へのドライブで海岸に、椰子、タコ、バナナの木が自然に生い茂り、空は澄みきって蒼く、島々の珊瑚礁は水平線の果てまで続いて、南国の美しい青い海平和な楽園に、時の過ぎるのも忘れ、南海の孤島の実感を味い、皆さんと楽しく過したので淋しく眠る幾千の英霊も喜んで下さっているような気がいたしました。

二晩もの交歓パーティーで、現地のかたがたの温い心に打たれました。

最後にお別れの握手を一人一人が交したときには涙がこみ上げました。

待ちに待った墓参のクェゼリン島は綺麗に整地された平坦な島で、椰子の木は少ないようでした。

慰霊碑にひざまづいて、安らかに眠って下さいとあれこれ思っている間に、許された時間は過ぎさり、振り返って見る碑は、涙にかすんで、再び訪れることがあるかと思いながら飛行機に戻りました。

米軍基地である一隅に立派に維持されている事は米軍当局又現地でお世話をして下さるかたがたの、温いご援助のお蔭と感謝しています。

墓参の夢の実現を心から厚く感謝申し上げます。

広島　奥井　礼子

芙蓉の花や、むくげの花が咲き揃い南の島を思い出しております。二度目の墓参ですので気軽な気持で参加いたしました。

前回に見た珊瑚礁の素晴らしさを確かめるように、窓外の景色に声を出して喜び、夜に入って、南十字星に期待をかけながら目的地につきました。十一時半という真夜中にもかかわらず沢山の島の方々のお出迎えを受け、見おぼえの顔々なつかしさ一杯でした。「又帰って帰って来たのネ」という言葉の挨拶に涙々。

島内観光、たのしい集い等数々の思い出を残し、サヨナラサヨナラの言葉に心づくしのレイに見送られ、大目的地のクェゼリン島に、覆い茂った巨大なタコの木蔭に綺麗に掃き清められた碑が見えた。奉仕して下さる人々の心に感謝しながら、持参の酒、お香などを供え墓参の報告をした。

短時間ではあったが、来てよかった「又必ず来るからネ」の言葉を残して

機上の人となる。

過ぎし日の事も想い浮べ、涙と共に島を見送った。

サイパン島の戦跡廻りは涙なしではいられなかった。でもサイパンの遺族の方々はいつでも島に来る事が出来るのは一寸羨しい気持になった。

今度の墓参も心に残る又楽しい想い出一杯であった。次の計画が出来るよう願っている。

広島　大上八重子

かつて胸から離れたことのない墓参に参加させて戴き厚く御礼申し上げます。夢にまで見ていた南の海、島。こんな美しい海、平和そのものの島で、なぜ戦争をしなければならなかったのか、軍人さんは、どんな気持でこれらの島に来られ、戦い、食糧もなく敗れ玉砕、どんなにつらかったかと綺麗な環礁を見下し乍ら涙にむせびました。

クェゼリンの島へ一歩足を踏み、ああここがわれわれの肉親の碑のある所主人に会いに来た所と思い急いでバスで行きお詣りさせて戴きました。

只涙の流れるのを止めようがありませんでした。限られた時間故手紙二通置いて帰りましたが、主人もきっと喜んで呉れたことと思います。私は伊32潜水艦乗員名簿を持参し、他の一通に一人でも多くの遺族が墓参に来れるよう約束したものでした。

①　マジュロ島の思い出

島民の方々の本当に優しい心に感心しました。真夜中であり乍ら出迎えて下さり私達に手造りのレイを首にかけて下さり又翌夕はパーティに御招き下さいました。その晩は芝生に座って、無数の星をながめました。

島内見物としてローラ岬での中食の時突然胸がこみ上げて涙が止まりませんでした。両方にいらした浦手様、園山様は不審に思われたと思います。かつてここで食べるものもなく、戦争された方もあったかと思い、食事がのどを通りませんでした。

山村さんにウォッゼの方角をお聞きしました。山村様は一週間前に行ったとかお話を聞かせて下さいました。

私の主人は、潜水艦でウォッゼ島の友軍のため食糧を輸送中、陸揚直前に雷撃され戦死したと聞いております。特に持参した香水を北に向って、海に投げてお祈りしました。椰子の木の多く茂った綺麗な海岸でした。海岸のサンゴ、白い砂を包んで帰りました。

②　韓国の李様という人に会いました戦争中私と同じ呉市に住んでいた方でマジュロ飛行場の建物の設計をなさった方と聞きました。英霊のお引き合せと申しますか、李様からウオッゼの深海でとれた黒サンゴとも黒松ともいうものを戴きました。そしてはじめて、主人はウォッゼ環礁の沖で潜水艦で戦死したことを話し、この黒サンゴとの縁を考え合せ末長く主人の形見として大事にしますと心から御礼を申しました。李様は無言でした。心通じるものがあったのだと思います。

勇魂よ永遠に　再びクェゼリンへ

神奈川県　片山　計

酷暑も終りを告げようとする八月下旬、戦争の後遺症を背負った一つの旅が始まろうとしていた。第一回の墓参者十名を含めた総勢35名、思いは同じ遺族の方々である。

往路、本土より遙か幾千粁の彼方、時差3時間のマーシャル諸島、クェゼリンは、着陸の折、夜のとばりに包まれていた。瞳をこらして島の灯りを探し求める。又、会いに来れたんだとの思いと、積年の感情が重なり涙が溢れて致し方なかった。そしてマジュロ、旅の疲れを丸二日間、兄、母を偲び、島民の暖い人情に囲まれて過す。山村要さん夫妻に案内され、ローラ岬を訪れる。見渡す限りの大海原と、環礁をふちどる白い波の輪、その輪をはさんで薄黄緑の海が、エメラルド、紺青、藍色と美しい模様を描く大小の緑の島や、白い輪の点在が印象的であった。珊瑚や貝を拾ったりの時が、慌しく過ぎ去って行く。

9月1日、さんさんと照りつける南洋の太陽の中をクェゼリンに再び降り立つ。滑走路を伝わって頬をなでる熱風が何かを語りかけてるようにも感じられる。大声で叫び、語り合えたら、どんなに嬉しいことだろう。

迎えのバスで墓地へ、写真で見馴れた墓碑を目にすると新たなる感激が湧いて来る。飛行機を延発しての僅か一時間、思えば短い墓参であった。

この時ほど「時間よ止れ」と思ったことはない。機に戻る道々、説明のあった聳える椰子の木（昭和19年の戦闘の折、この一本のみ残ったものだと言う）を呆然と眺める。

南溟の空の下に眠る兄は、自分に何を語りたいのだろう？……それは生命の尊さなのかも知れない。

旅の終りの今、環礁に散った幾多の英霊に対して、勇魂よ永遠にと、只々祈るばかり！

生命ある限りつぶやくクェゼリン、忘れられない、緑の島である。

兄ゆかりの品をタコの木の根元に埋めた時、傍で祈りつづけて下さった奥様（名前を失念しました）有難うございます。

永く心に焼きつく旅の思いと共に、墓地に奉仕下さるクェゼリンの方々、マジュロの皆さんに感謝いたします。

二度あることは三度の譬通り、何時の日にか又、訪れることが叶うかもしれない。

福岡県　金子庄之助

昭和51年の正月に帰省し、母の許で始めて〝環礁〟を知り、現地墓参等の記事を拝読、次回墓参の可能性があればと、早速参加希望を、母方より申込んでもらっていましたところ、今回図らずも墓参の機会を得、母の存命中に無事墓参を済ませることが出来、国許の母も定めし喜んでいることと存じます。之も偏えに、会長、副会長、幹部の方々の、並々ならぬお骨折の賜と、感謝申し上げる次第です。承りますれば戦後、はじめて現地調査のため、浮田会長、佐竹幹事のお二方が、マーシャル諸島よりギルバート諸島、更にナウル島、オーシャン島方面まで赴かれた際の、数ケ月に亘る、筆舌に尽し難い御労苦の数々、この度、現地を訪れ色々見聞して、当時の御辛苦の程が偲ばれました。偖、クェゼリン墓参の感想を、と云うことですが、今回の墓参に、東京二泊共八日間、仕事を休みました為、帰ってからは、休日も返上、早朝より夜遅くまで仕事に追われ、寸暇なく、今夜は是非とペンを執っても、一行も書けぬうち、寝不足と昼間の疲れでいつの間にか眠ってしまう有様で、筆の運びも、遅々として進みませんので、詳細は他の方々の記事に譲り、特に感銘深かった事のみ記してみたいと思います。

○　マジュロの人々の麗わしい心

十数時間の雲上人の生活にも飽きて来た頃、やっと、マジュロ空港に到着、やれやれと下界の俗人にもどり、胸一杯潮の香高い南海の夜気を吸い込み、名ばかりの空港ゲート外に出て見ると、夜も遅いのに、多数の日系島民の方のお出迎えを受け、団員全部首にレイを掛けて下さり、長旅の疲れも吹飛び感激しました。翌晩の盛大な歓迎パーティーには、真心こもる御馳走、その上珍らしいお土産を頂戴し、又離島の際は遠い空港までお見送りまでして戴き、骨肉も及ばぬ御歓待を受け島の方々の御芳志には御礼の言葉もありません。又接する総ての島民の心の暖かさ、現代の日本人の忘れ去ったものを、島の人々から教わった感じがしました。

○　クェゼリン

待望のクェゼリン空港に降り立ち、基地のご好意で用意されたバスで基地に向う途中、瞑想すれば、この空を、この海を、この大地を疾駆し、鬼神も泣く奮戦も及ばず、圧倒的物量の前に、切歯扼腕、無念の涙を呑んで、玉と砕け散った吾が将兵達の喊声が地の底から、又、海の底から沸き上って来るようでした。兄も、この空で散華したのであろうか？それともルオット島の基地で飛び立つ間もなく、敵機の爆撃でやられたのであろうか？或は艦砲射撃で、と想いを馳せているうち、赤い鳥居が立ち、綺麗に清掃された日本人墓地に着いていました。早速はるばる日本から持参したお供物を供え、各自思い思いに英霊の冥福を祈り、機会があれば、又の墓参を英霊と約し、別れを告げましたが、ここでも御世話下さった島の方達の御芳情は深く頭に刻まれ、終生忘れることは出来ないでしょう。サイパン島の戦跡めぐり、其の他は、今回は割愛させて戴きます。

最後に墓参団一行全員無事、鎮魂の旅を終え、帰国出来まして御同慶に存じます。会長御夫妻並びに役員の方々は、団員の知らない蔭のご配慮大変だった事と深謝し擱筆します。

京都府　川本彦次

この度のマーシャル方面遺族会墓参

京都府　川本玲子

靖国の　社に額突き　号泣せし
亡父の写真　抱きて旅立つ

結団式　自己紹介も　胸つまり
悲願の墓参に　多く語れず

マジュロ島

島人の　安らけに　真情に
墓前を前に　こころ調う

この目でと　三十余年の　願叶い

クェゼリンの土　涙で濡れぬ

この空も　この海祖国に　続けども
ここクェゼリンの　遺骨永遠に

クェゼリンに　砕けし兄は我子と同じ
二十一前の　英姿を留む

環礁の　水に浸りし　れい背負い
連れて帰らん　母の待つ国

心のこし　再訪も約せず　機窓より
離陸の島に　ただ手ふりふる

については、浮田会長始め、役員、事務局の皆様の骨身措しまぬ、日夜の努力のお蔭をもちまして、三十有余年待ちに待った墓参が叶えられることになり夢かうつつかと、その日を待ち焦れて参りました。

本当に御心労を患わして有難く厚く感謝申し上げます。何から何まで行届いた準備なり連絡をしていただき、私共は本当の身一ツで靖国神社に集合させていただいた次第。これとても並大抵の事ではなかったかと、感謝に堪えません。

靖国神社に参集したその時から、皆様と、顔を合せ、自己紹介のあとは、同じ気持ちで、今日の日を待っておられたのが肌でじかに感ぜられ、兄弟姉妹のような親しみを持ちました。

昇殿参拝をさせて戴き感無量。今ま

では自分の家の或は墓前でぬかづくのが、せめてもの供養と考えていましたが、この靖国の御社の前に額づき、ほんとに御霊の御前に接した感に打たれ嬉し涙に咽びました。

それ以後のクェゼリン墓参までについても、出発前は勿論、現地についてからも、その筋の米国政府関係機関との連絡など、私達の休んでいる間も、遅滞ない連絡をつけていただき、しかも、何のこともなかった如く、私達に感じさせて頂けなかった心遣いにも頭が下りました。本当にありがとう存じました。

何遍書いても、感謝の気持は書き切れません。その結果が、あの現地の人々の親身も及ばぬ歓迎ともなり、驚きと嬉しさが入り交り、涙がにじみました。やはり何十年か、日本の統治にあったこととも併せ考えられるのかもしれません。私は比島の戦跡にも、慰霊にも参りましたが、全然感じが違いました。まして30年余りも経ておりますし、こちらから進攻して行ったわけですから、協力どころか、憎しみのまなざしさえ感じ、激戦の地での弔いも、充分な事が出来なく、ある部落では危機感さえ感じたこともありましたが、マジュロ島にせよ、クェゼリン島のあの立派な墓域には、現地の人は勿論米軍関係者等の御好意の何物でもないと、御線香をあげ、亡き父の写真を供え止めどもなく、三十余年の涙を、心おきなく流させて頂きました。この感激は何ものにもかえ難きもので、始めて亡き義兄に会えた喜びで、何とも云えない気持でした。これでもう何も考えることはありませんし、してあげることもないと嬉しく感じております。

本当に比島或いは、その他の島々で散られた方々に較べ、あたたかくお祀りいただいている事を、この目で見て、何も云うことはありません。

勿体なく、有難い事ばかりで、出来れば、毎年でも墓参が叶えればとの、厚かましい欲望が云わせて頂けるのならいわせて貰う位です。その他宿にしても充分なものでわれわれ砂をかみ、土をつかんで散った肉親の墓参ですから、何もかも充分だらけで、今日の我身の幸せを、改めて見直し、感謝の一日一日を、いつまでも送らせて頂きたいと念じております。

最後に会長始め、役員皆様方の御健康と御発展を祈念し、また会員皆様ともう一度も二度もお会いできることを念じて筆を擱きます。ありがとうございました。

東京都　小泉文江

今年は本会計画の第三回現地墓参団に参加させていただき、夢にも見たクェゼリン墓地の芝生に坐して、全島に眠る英霊に敬虔の祈りを捧げました。そしてやっとクェゼリンにまいりましたと一言三十四年の長い長い経ったこの現実にただ涙がとめどもなく流れてその嬉しさが身にしみました。会長始め多くの方々の尊い御力によって、この墓参の叶えられましたことを心から御礼申します。

訪れる何れの島でも、本会の持つ偉大さを数多く、現実に見聞させていただき、ただ驚くばかりでした。現地墓参に参加されない遺族の方達に色々とお話したいと思っております。参加者一人一人が満たされた思いと感謝を秘めて家路につかれたことでしょう。

孫達の折った鶴そしてあなたが幼い時遊んだと聞いた松山の松傘と一緒にマジュロ海岸に立って遙か北西を向って送りました。あなたにとどくようお祈りして。

リタ地区から対岸のベゲリアン島を望む

栃木県　菊地彦亘

九月一日、中部太平洋上のクェゼリン島慰霊碑の前に立ちました。一度は訪れ、この足で踏み締め、この眼で確めたいと念願していたことが、今、叶えられました。

島の略中程にある墓地は、真赤な鳥居、緑の芝生にタコの木のある閑静でよく清掃されておりました。この島は米国の重要な軍事基地との事で自由に立寄ることの出来ない島であることを知ると、終戦後30有余年経た現在、戦後はこれからであることを痛感しました。

赤道直下、灼熱の太陽の下、紺碧の海から打寄せる白波に浮彫されたこの南海の孤島に、マーシャル、ギルバート方面で戦歿された三万五千柱の御霊が祀ってあります。祖国のために華と散った英霊の御霊に対して、異郷ではあっても、安らかに永眠されますことを願いながらお祈りしました。

クェゼリン環礁のルオット島を一目見たいと思い、飛行機が高度を下げたとき「ルオット島は何処だ」と。同一環礁なので島影でも見たいと思いましたが不明でした。聞くところによると、ルオット島は、クェゼリン島から約一時間の彼方にあるとのことでした

ルオット島は現在全島ミサイル発射場で軍関係者以外立寄ることのできないとのことでした。

もし可能ならば、ついでの時に、お供物を託したいと思いましたが、その機会なく果せませんでした。近い将来必ずルオット島へも墓参できますことを念じながら一抹の寂しさを残し、後髪を引かれる思いで基地を後に空しく機上の人となりました。

最後に第三回現地慰霊の墓参にあたり、会長始め役員皆々様方の並々ならぬご努力によりましてなしとげられましたこと又マジュロ島民の暖かい歓迎を含め心から感謝いたします。

東京都　鈴木つな子

8月29日夜半、私達は無事にマジュロ空港に降り立ちました。

出口は黒山の人で涼みがてらの見物と思って居りましたところ、それは私達を出迎えて下さった人達で、一人一人に香り高いレイをかけて下さり、荷物をとって手伝って下さる等々、何かジーンと涙がこみ上げて来ました。遠い遠い故郷へ帰って来た様な気持で——特に私は、東京生れの、東京育ち、故郷をもたない者のせいかもしれません。

翌日は提供されたスクールバスでピクニックに出かけました。途中至るところ白い花、真紅の花が咲き乱れ、幅のせまい処は、両側が海でした。この行ったローラ岬の浜は緑の椰子が生い繁る遠浅の浜で、透きとおるような美しい海に水着をお持ちの方は泳ぐなどして楽しいひとときをすごし、私は紺碧の礁湖の向うに見えるカラリン水道そして更にその先にある筈のルオット島には、互いに相逢いたき思い、語りたき言葉を胸一杯にして茫然とするのみでした。

何故に我々の肉親を生木を裂くが如く奪い無惨にも死なしめ又このような平和な心優しい島の人々の生活を踏みにじらなければならなかったのか……悲しく怖しい思いでした。もう未来永劫こんな事のないよう切に祈りました

夕方には団員全部日系島民の方々の御招待で、涼しい野外で心づくしの夕食を共にいただき、私達がややもすれば忘れかけていた軍歌や愛国行進曲そして隣組の歌など、島の方々のリクエストによって一緒に唄い、在りし昔を懐しみました。

我等の夫や子、兄弟が遥か望郷の想いを寄せて唄っていたのであろうあの歌、この歌を一緒に唄って下さった人達に、我が肉親はどんなに慰められたことでありましょう。

30数年後の今日なお覚えていて、今再び私達が合唱した感激は忘れることはできません。

島の人達はそれぞれ音感が良くて「緑の島」「愛する我島」等きれいなコーラスで素晴しく印象に残りました。

クェゼリンの墓地は美しいグリーンの芝生に真赤な鳥居が立ち、整然とした佇ずまいに現地の方々のお心持を泌みじみと感じ、多くの英霊も安んじて下さるものと思われました。

碑に嵌め込まれた出身地産の小さな石にそれぞれの御霊と私達遺族の心がこめられているように思われました。

いろいろとご尽力下さいました多くの方々に改めて御礼を申上げます。

ここまで来て詣いらせて頂き本当によかった。これで安心致しました。

この旅でそれはそれは多くの事を学びましたが、その一つに「誠」こそ風族、習慣言語が違って居ても通じあうものであり、人間同志の宝であるということでした。

有りがとう御座いました。島の皆さん！有りがとう御座いました。会長さん！

島根県　園山和子

かねてから一度は現地を訪ねたいと念願いたしておりましたところ、会長様はじめ役員の皆様方のなみなみならぬご尽力により実現いたし、親しく参拝、慰霊申し上げ、念願を果たし、本当に嬉しく感謝いたしております。前以て頂いておりました写真通りの立派な慰霊碑の前に立ち、感無量でございました。

持参いたしました田舎の井戸水や、お茶などお供えいたし、心静かに御冥福をお祈り申しましてございます。

子供や孫共も写真で連れてお詣りいたしました。地下の御霊もきっと、お喜びのことと思います。短い間で、心残りではございましたが、お詣りできたことに感謝いたしつつお別れいたしました。

マジュロの島民の方々の歓迎には、心を打たれ感激いたしました。有難いやら嬉しいやらで感謝の気持でいっぱいでございました。良い思い出ともなり、心に残りました。

ルオット（夫の戦死地）も同じ珊瑚礁の島と知り、一入思いを新たに涙ながらに、海辺で貝や石を採取いたし、砂と共に記念に持ち帰りましてございます。紺碧の海、きれいな空、椰子の木の島、虹の美しい平和の島、夢の島のようにさえ感じ、許されるなら何時までも居たい気持にかられましてございます。一方この島でも私達の肉親が、尊い血汐を流され、無念の最期をとげられた当時の事ども思い浮べ、身のひき締る思いがいたしました。

幸いに天候にも恵まれ、無事に帰国できましたことを感謝いたしております。今までは想像の日ぐらしでございましたが、今では思い出の日ぐらしに代り、日々お沙汰をいたしております。

土産話に花を咲かせ、ある時は泣き

又ある時は笑いまた懐しく、走馬灯のように思い巡らしながらの昨今でございます。

福島県　富田　みつ

私は昭和50年5月に、マーシャル方面遺族会のことを初めて知りました。

会長様から、今度現地墓参があるから御希望なら申込んで下さいとの連絡がございましたが、私がお願いした時は、既に遅く次回を待つようにということで、無念ながら待ちつづけて3年。今年1月環礁29号で現地墓参の募集が発表されたので早速申込みました。

父に早く死別した弟は母にとって大切な一人息子であったので、私達には羨しい程大事にされていたのが思い出されます。

出征前は無線通信技師で大連満鉄の埠頭ビルに勤めておりました。昭和16年に入隊以来一度も帰らず、南方に行ったことも知らずに、終戦まで戦死の公報すら入らなかったのです。

それが私たちが内地に引揚げて来たら、既に遺骨が帰って来ていたことを知り驚きました。あれから長い年月、母は一度我が子の戦死場所に行けるものならと願っておりましたが、それも叶わず、他界してしまいました。

その母に代って私が弟の墓参ができたことは、この上もない親孝行をなし得たと喜んでおります。今回は船や飛行機の都合でマロエラップ環礁には行けませんでしたので近くの島マジュロ島で当時を偲び御冥福を祈りましたら肩の重荷が降りた思いでございます。マジュロのアジドリックホテルの部屋で、夜中の2時までかかって、内地から持参した灯籠を組立て、元の戦友の方々の寄書を貼って3ケの灯籠を流しました。そしてクェゼリンやマロエラップまで、消えずに流れて行くようにと祈りました。

明くる日はマジュロを出発、クェゼリンに行く日でした。空港での待ち時間の長かったこと、機内でも落付かず、お供物のこと、家族の写真のこと等を確めて、飛行機から降りました。

墓碑の前に立ち、40年も会わなかった弟に「ようやく来ましたヨ」と声を出して話しかけ、「内地のお米ですヨ」と言いながら、好物だった品々をお供えし家族の写真と、戦友の寄せ書を添えて祈りました所、それに火がついて、写真にまつわりつき驚きました。

一緒にお祈りしていた方が

「御魂がうれしく、故郷に帰りたくてお母様の写真から、離れたくなかったのでしょう」

と教えて下さいましたので、その灰を大切に持ち帰り、仏壇に供えました。

出発時墓地に着いたときの御注意も戴き乍ら、お祈りしている中に、涙が止めどなく流れ、顔を上げることができず充分墓碑を拝見する事も、触れることもできず終りました。

誠に短い時間で残念でしたが、限られた時間故、急いでバスに乗り、墓碑が見えなくなるまで、別れを惜しみました。この瞬間は生涯忘れられないことでしょう。今回の墓参は私にとりまして、感銘深いことばかりでした。

マジュロでのお出迎え、パーティーへの御招待そして御丁寧なお見送り、又クェゼリンでの日系の方々のおもてなしなど、敗戦国日本人に対するお取扱と思われない丁重なおもてなしを戴き感無量でした。

そして又日本国民として反省させられる点も数多く教えられて来たように思います。経済繁栄に陶酔している中にいつの間にか日本人としての麗わしい魂が、むしばまれて来ているのではないかとさえ思いました。

万一少しでもそのようなことがあるとしたら、祖国の平和や繁栄を願って尊い一命を捧げた肉親英霊に申し訳ないと思います。

どうぞ南海に眠る幾千幾万の英霊の皆様、祖国が何時何時までも平和と繁栄をつづけますようお見守り下さることを念じて拙ない筆を措きます。

クェゼリンの墓参をすませて

静岡県　服部　くにゑ

「某年某月某日、マーシャル諸島方面に於いて戦死。……」尊い生命の終りを知らせる公報としては、あまりにも事務的な冷い一片の紙を手にした時から、生きている間にせめて一度は現地に行き、この眼で主人の戦死した島を確認したいと思いつめておりました。

長い間の念願であった玉砕の島、クェゼリンの墓参がかなえられました。浮田会長様をはじめ、役員の皆様の並々ならぬご苦労のあったことを、心から感謝いたしております。

南国の強い太陽の照りつける緑の芝生に囲まれて、タコの木の茂る下に、英霊は静かに眠っていました。石碑の前には綺麗な花を供えて下さってありました。そこへ私達が日本から持参した大輪の黄菊、白菊、水、酒、煙草、英霊が生前好まれた数々の品が供えられた後、芝生に額づいた時、長い長い年月の望みが、ようやく果された感激で、胸が一杯になり、こらえていた涙が、一度に溢れ出ました。

生後四ヵ月しか共に暮せなかった洋子も、今は二児の母親となり、一家五人幸せに暮しています。どうぞご安心ください。お話したいことは山程あるのに、涙と嗚咽が先になり、言葉になりませんでした。

皆様も同じ思い、長い祈りの後に、それぞれ碑の前で、記念写真を撮り、限られた時間内での墓参を済ませ、心を残し乍ら、島を後にしました。

青く澄んだ海、美しい珊瑚礁に囲ま

れたこの南海の孤島で、あのような壮烈な死闘が繰り返えされ、祖国の勝利を信じ、残した父母、妻子、兄弟に思いを馳せ乍ら、死んでいった英霊の気持を考えるとき、このような悲惨な戦争を二度と繰り返してはならないと、思いを新たにしました。

マジュロに滞在の三日間は、温かな島の皆様の心からの歓迎を受け、楽しい気持で知らぬ間に、時間が経ってしまいました。多忙な毎日の中で、ともすれば失いがちな、心のふれあいの大切さを教えられた思いがいたします。

このような温かいおもてなしを、見知らぬ私達まで受けられたのも、前に残された、浮田会長様のお人柄のおかげと思います。

この旅行中、会長、佐藤副会長、役員の皆様、遺族の皆様に、大変なお世話になりましたことを、厚く御礼申し上げます。

尚浮田会長様には、十月に再度現地にお出かけの由、くれぐれも、ご健康にはご注意なさいまして、無事大任を果されて、お帰り下さいますよう心からお祈り申しあげております。

お兄さんが生きていたらね

東京都　長谷川　智　子

終戦の日から、30余年毎日あわただしい生活の中で、私は申しわけないことながら、兄のことは殆ど忘れています。でも2月6日が近づきますと気持がちがってくるのです。「今おじさんが一人ふえていたら」「お兄さんが生きていたらね」と姉や子供達と話し合うことしばしば。一体どんなところでどんな風に多くの方々と共に亡くなったのか、行ってみたい、知りたいと当時受け取った手紙の文面を思い出し、出来ることならと思っていたところに墓参の予定のお知らせ、早速我が家の連中に許しを得たわけです。その日は8月28日。それからは、後4ヵ月、後2ヵ月、後10日と印のついたカレンダーを見て過しました。そしてどうぞ無事にその日をと待ちつつ、不幸中の幸という私事もありましたが、どなたかに守って頂いて元気で幸先のよい出発に手を合せました。

成田に一泊、マジュロに3泊、サイパンに一泊いよいよ日程通りの行動に入りました。いろいろと心に感じる事ばかりの毎日でした。

そのうちから少し書きとめてみました。

—クェゼリン島—

この島の周りの青い綺麗な海の色、澄んだ空、一本だけ残っていたという背の高い椰子の木、多くの御霊の眠る石碑は静かに那智黒の砂利の上に建てられ、すべてが何かを物語っているように感じられました。かつては数多くの椰子の木が茂っていたのでしょうが今は若い木ばかり、山一つなく、その身をかくすことも出来なかったのではないかと思うこの土の上で、この太陽のもとで、どんなことが起こったか、激しい戦いの中で、散っていった幾多の方々の気持はと、思わず緑の芝生をさわっておりました。皆様も何か話しかけていらっしゃるように悲しい心の御対面であったと思います。たくさんのお供えがあげられました。

—椰子の実の味—

マジュロの島めぐりは半日行われました。島民の方の御好意でその日大事な(唯一の生活の収入源)大きな椰子の実を沢山とって椰子刀(大きなナイフ)で叩き切るようにして穴をあけて下さいました。皆さん一生懸命飲んでいました。きっとまずどんな味かしら？こうしてその時も咽喉のかわきをこのようにしてと想像されたと思います。この水の味は、今も変らない尊い味なのです。唯一の飲料水でもあったのです。この椰子の実は大変栄養があり、現地の赤ちゃんにも飲ませるそうで、今更ながら、自然の神様のみ力を不思議に思います。あの味は忘れられません。

—恥らいのほほえみ、現地の方々との親睦—

あちらの皆様のあのほほえみとあかるさ、私達の今日の生活では、失いかけているようにも思われます。大変美しく素敵に見えました。めまぐるしい競争もない、マジュロタイムの生活。文明の利器にふりまわされずに、洗濯をしていた少女の姿は麗しく、見惚れました。再三逢える喜びについ口ずさむ歌声も、耳の奥に残っています。来年は日本を訪れるつもりの方もおいでのようでしたが、果して私達のこの生活、雑踏がどのように感じられるでしょうか。きっとびっくりなさるでしょう。心配です。昨今の朝日新聞の記事、「異邦邦人」を思い出します。

かくして35人の方々が、それぞれの思いをこめて、無事墓参をすませ帰って来ました。何かホットされた様なお顔でしたがお疲れは如何でしたでしょうか。会長様、副会長様を始めいろいろお世話、お骨折いただいた数人の方々さぞかしお疲れでしたでしょう。本当にありがとうございました。

行動中は勿論のこと、数ヵ月も前から下交渉に、下準備にと、私たちの想像以上のお忙しい毎日でございましたでしょう。お蔭様で私共は念願を果すことができました。深く感謝いたします。そして添乗員の山地さん。

東京都　水　野　は　な

昭和53年8月28日午前11時靖国神社に集合、護国の英霊に参拝した後、バスに乗って成田に向い、同地に一泊して、前夜祭を行い、翌朝成田国際空港より、私共マーシャル方面第三次墓参

団員36名は、空路目的地マジュロ環礁に向いました。途中、機中から眼下に横たわる紺碧の大海、雄大でさまざまの姿の雲が描く景観を賞讃しながら、マジュロに安着。空港を出ると現地の方々から手造りのレイを、全員にかけて歓迎して頂きました。同地に滞在中二夜にわたり、晩餐会が開催され、佐藤副会長の巧みな司会で、浮田会長のあいさつのあと、現地の方々から、歓迎の言葉が述べられ、次いでなつかしの軍歌やナツメロ歌謡、島の唄などが披露され、又珍らしいダンスなどもあって夜の更けるのも忘れました。一同生涯忘れることの出来ない思い出となったことと信じます。

懐しいマジュロを後に、待望のクェゼリン島に行き、島の方々の用意して下さったバスで、綺麗に清掃してある英霊の眠る墓地に着きました。

各自持参のお供物を供えて、一分間の黙禱を捧げ、立ち上る線香の中から聞える読経の音に、多大の感銘を覚えました。ふとそのとき私の頭に浮んだのは、昨年ナウル、タラワ墓参の際、土岐さんから吹奏して頂いた尺八「阿字観」のカセットを持って来てその素晴らしい音を、ここに眠っておられる英霊の皆さんに聞かせてあげたかったナァということでした。しかしその時、島に居住しておられる中田さんが有難いお経を読んで、その内容を詳細に説明されたので、救われた気持になりました。

墓参を終って、島の方々から、真心のこもったデラックスなお弁当を頂き更に案内されて島内見学を致し、意義深い墓参旅行を終了することが出来ましたことを喜んでいます。

これ偏えに会長さん始め関係皆様のご尽力の賜と、深く感謝申し上げます

今後も機会がありましたら命のある限り、何回でも参加させて頂きたいものと念願しています。

東京都　山口良二

空と海との美しさに言葉もありません。マジュロの人々の暖い歓迎にはちょっと驚くと同時に感激しました。

南海の島々は戦争が行われたという所としてはあまりに美しく、幻想的でまた淋しい所だと思います。天国に一番近い所なのかもしれません。

終りに役員の方々には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

静岡県　山田登世

「良かったネ。いつも行きたい行きたいといってた墓参に行けて」

出発の前夜、就職していた頃の上司の方が御旅行先から電話を下さって、大変喜んで下さいました。

飛行機嫌いの私ではありましたが、始めてお目にかかった会員の方々とも心おきなく、主人のもとに行ける興奮と期待で、ただ快適に機内の時を過すことができました。

連れていって下さったその土地、その場所で、思いもよらぬ事ばかりでしたが、紺碧の海、椰子の群生、全く山のないこの地で、どのような防衛、戦闘を続けられたのか、想像するだけでも、その苦闘が背を伝ってゾッとしました。

11時半という夜半マジュロに着いた時、思いもかけない島民の皆様のお出迎えをいただきその上香り高いレイをかけて下さいました。この喜びは、初めて訪れる土地への不安も消え去ってかつて経験しなかった感激は余韻をいつまでも響かせました。

泣いてはいけないと、自分にいい聞かせていましたのに、あの墓標の前に額づくと、30数年間はとび去って、そこに主人が居るように思われ、離れていた年月の出来事を次から次に報告することが出来ました。

一週間の旅程は主人の身近に居る安堵感で、心安らぎ、珊瑚礁の道、椰子の木々、暖い海水も、島民の皆様とも心の通う喜びが溢れ、この島に来られた喜びを、来られなかった方々にも、分けられるものなら、お分けしたいと思う心しきりでした。

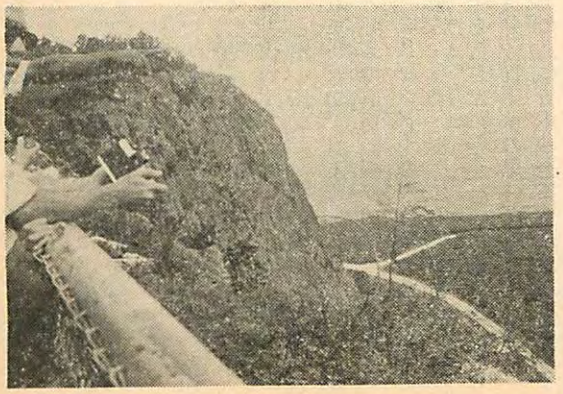
30数年間、主人の眠る地をこの目でこの足で尋ねたいと念願して、参りました。そして今その願いも叶えられてここしばらく、呆然としております。

これ一重に会長様ご夫妻、役員皆様方の計り知れない御努力、親身も及ばぬお心使い、御案内下さいました旅行者の方々の御骨折を深く深く御礼申しあげます。

千葉県　渡辺朝子

待ちに待っておりました8月28日、靖国神社集合、昇殿参拝、ようやく、主人の最後の地クェゼリンに行けると思いましたら、とても嬉しい気持でした。

そして始めての空港成田から、コン



サイパン・スーイサイド・クリフ

チネンタル航空にて、マジュロ着。深夜にもかかわらず島民の方々が沢山、それぞれ美しい「レイ」をもって、お出迎え頂き、生れて始めて「レイ」をかけていただきました。

その翌晩は御招待を受けて、淳朴な島民の方々は、日本をいつまでも懐かしんで下さり、君が代を不動の姿勢で歌われたのには心から頭が下りました。その日午前お連れいただいた紺碧の海、ローラ海岸は忘れることができません。

9月1日（クェゼリン時間8月31日）には念願の墓参、きれいに清められた墓前。一度は是非行って現地の慰霊が出来ればと思っておりましたことが、今本当に実現した喜び、名前を呼び、お経を誦じ、本当に感慨無量でございました。

許されるならば、ここにいつまでも座って居たい思いでいっぱいでした。まだまだそのままに放置されている御魂が多くある中に、此処に丁重に霊祀出来たことは本当に有難いと思いますこれも偏えに会長様はじめ役員の方々の御尽力に外ならないと感謝いたします。

お墓と、そして上空から見た環礁の美しさは脳裡にやきついて離れません。

最後の地サイパンでは悲惨な有様を聞き、どんなに苦しく、口惜しい思いで最期を遂げられたかと、涙なしには聞けませず、又あのガイドして下さったワンさんが、一生懸命説明して下さったのでなおの事泣けました。

本当に参加させて頂いて良かったと感激を新たにしています。

南雲司令長官最後の司令部附近
巨砲の弾痕

〃海征かば〃

副会長　佐藤宗丕

九月二日、サイパン島戦跡めぐりのバスは島の最北端に着いた。ガイドの声が一段と熱を帯びてきた。

「あの日、一方的な米軍の砲撃爆撃と地上軍に追われた友軍はここまで来ました。皆さん、友軍は何故ここに来たのでしょうか？　ここは日本に一番近い所です。天皇陛下の居る日本、親兄弟の居る日本に一番近い所にと思ってではなかったか、と私は思います。

友軍は最後の声を振り絞って天皇陛下万才、大日本帝国万才と叫んで、次々とこの断崖から身を投げました。

この岬は今、バンザイ・クリフ（万才岬）と呼ばれています。」

（昭和十九年六月十五日、米軍はサイパン島に上陸した。六月十九日のマリアナ沖海戦で一挙に空母三隻と航空機四〇〇機を失った我が軍は、南雲司令長官以下四万一千人、米軍の本土進攻を一日でも遅らせ本土防衛準備の時を稼ぐため死力をつくして抗戦したが七月七日、力つきて在留民一万余人と共に島の北部地区で全員玉砕した。）「資料より」

「皆さんが今、毎日平和な暮しができるのは、皆さんの身代りになった友軍のおかげではないでしょうか。

私と一緒に〃海征かば〃を合唱して戦死した友軍の御霊にお祈りしましょう」……岬の突端で海に向って唱和する私共の頬は濡れ、遙かに続く太平洋が涙で見えなくなった。

眼下八〇米の黒い巌に怒濤の牙が嚙みついてくる。何度も何度も。

私共に〃海征かば〃を合唱させてくれたガイドさんは、通称王（ワン）さん。近畿日本ツーリストの現地案内人で、父母共にサイパン島民、従ってワンさんも島民だが戦争中海軍に徴傭されていた由。日本軍と云わずに、友軍と呼ぶのに何か暖かいものを感じた。

「ジャングルの中には今も友軍の遺骨がいっぱいあります。雨風に打たれ乍ら皆さんに抱かれて祖国日本に帰る日を一日千秋の思いで待っています。この島に日本の企業がホテルやゴルフ場を作るそうです。私は、その前に友軍の遺骨を何とかしてあげて頂きたいと思いますが、皆さんはどう思いますか。」絶叫に近い声で熱っぽく訴えるワンさんの眼に光るものがあった。

私は彼の顔を見るのが恥しかった。怠慢をきびしく責められている感がした。この島でも、私の先輩、同僚、部下たちが大ぜい玉砕したのに私一人平穏な日々を三十数年過してきたからである。折柄台風発生の空模様で、サイパンの景観は今一つではあったが、ワンさんとの出合いによって風景以上の美しいものを見、心のうちに小さい乍ら一つの決意をして帰った。

サイパンに憶う

浮田桜代

大君の弥栄叫び紺碧の
海に散華のはらから偲ぶ
むづかりし子をなだめつゝ手を取りて
祖国憶ひて身を投げしとや

中部太平洋地域の戦跡慰霊巡拝団帰る

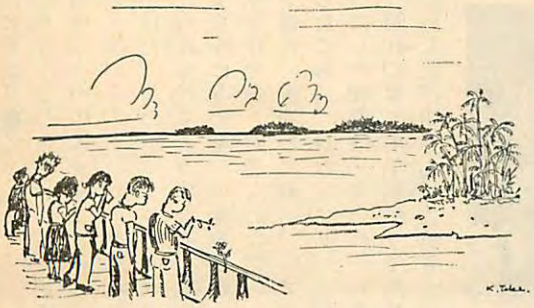
事務局

このことは環礁29号で紹介したように今年は政府即ち厚生省で主催して下さり、多数の希望者を迎えたいご配慮があって、本会にも協力方御要請もいただいたので会員に紹介し募集した。

この地域には特別地域クェゼリンがあり、又チャーター可能の船が少ないので当局の御苦労は容易でなかったと思う。承る所によればコンチネンタル航空で、11月16日から増発する往復一便ずつがあったのと、船がチャーターできたので左の日程表により実現するに至った。厚生省からはマーシャル班に柳郁雄事務官と竹之下和雄事務官が、またギルバート班には小竹唯夫事務官と小林冨三郎事務官、何れも遺骨収集、慰霊巡拝のベテランの方達なので、参加者（マーシャルはA班11名、B班10名、ギルバートは18名）は御満足ゆく慰霊巡拝の目的を達し無事帰国された。

日程表

月日	マーシャル(A)班	マーシャル(B)班	ギルバート班
11月12日	午後成田集合（成田レストハウス）説明会等・成田泊		
13日	午前九時成田発・午後一時サイパン着、合同追悼式、サイパン泊		
14日	午前サイパン発　午後11時過マジュロ着		午前サイパン発 午後ナウル着
15日	午後マジュロ出港		午前ナウル発 タラワ着
16日	船舶巡航（ヤルート ミリ 巡拝）		タラワにて環礁内巡拝（船）
17日	午前マジュロ入港		タラワ、遺骨受領、追悼式
18日	午後マジュロ出港		タラワ、海上慰霊、船
19日	船舶巡航（ウオッゼ、マロエラップ）	マジュロ泊 午前マジュロ発 クェゼリン着 クェゼリン巡拝	チャーター機でマキン
20日	マジュロ入港	午後クェゼリン発 マジュロ着	午後タラワ発ナウルへ
21日	午前マジュロ発　午後グアム着		午後ナウル発・グアム着泊
22日	午前9時 グアム発・午前11時35分 成田着		



78·11·16 ヤルート環礁ジャポール水道における洋上慰霊

（竹之下和雄画）

厚生省担当官との懇談会

政府派遣慰霊巡拝団が帰国された直後、引卒者の一人である竹之下厚生事務官から浮田本会会長に「報告のためお伺いしたい」との連絡があり、之がきっかけとなって次の通り懇談会が行われた。

一、日　時　53・11・27　午後6時

二、場　所　渋谷区神宮前　水交会

三、出席者　17名（順不同・敬称略）

（厚生省）柳　郁雄 事務官（団長）竹之下和雄事務官＝以上クェゼリン班　小竹唯夫事務官、小林冨三郎事務官＝以上ギルバート班

（参加遺族）森田幸吉、小早川宗一、坂本ヤスエ、津久井艶子、長尾静子

（特別参加）クェゼリン島在勤、中田勇御夫妻（本会）会長、副会長、常任幹事、事務局員

四、次第　浮田会長から、平素厚生省の本会に対する御指導と御協力に御礼を述べ、今回の政府主催の慰霊巡拝が順調に行われたことにお喜びを申上げ、又、関係者の御労苦をねぎらい、懇談に移った。身内同志の打とけたお話は、話す者も聞く者も皆現地を見ているだけに熱が入って時の経つのを忘れた。紙数の関係で、厚生省側のお話の大要を抜書きする。

◇始めての地域であり、現地の方々が我々の目的を理解してくれるかどうかがわからず、一行中に76才の高令者もいること、舟旅もあること等から多少の心配をしていたが、事故もなく充分に目的を果して全員無事帰国できて幸せであった。今回の行動が成功したのは、一つにマーシャル方面遺族会が、永年に亘り現地の方々と良い人間関係を作っておいてくれたお蔭で、感謝に堪えない。

◇マーシャル班はマジュロから船でヤルート、マロエラップ、ミリ、ウォッゼなどに行ったが、便乗でなく、こちらの都合に合わせて運航してくれて助かった。

乗船の際誓約書にサインをしたが、「一切の事故に対してマジュロ政庁は責任を負わない」とあったのは参った

（14頁へつづく）

昭和五十四年二月六日（火）

慰霊祭　六日（火）
報告会　六日（火）
直会旅行　六日・七日
靖国神社　伊東　の御案内

恒例の二月六日前後の行事について御案内申上げます。

◎慰霊祭・定期総会・現地墓参報告会

午前九時　受付開始　靖国神社
午前十時　慰霊祭　〃
午前十一時　定期総会　報告会
午後〇時半　解散

◎定期総会と現地墓参報告会は、慰霊祭の直後靖国神社境内の宝物遺品館で行います。

53年8月から9月にかけてクェゼリンへの現地慰霊団の報告会を開きます。8ミリの映写、録音テープ、現地の写真等を用意しておきます。

◎九段会館に宿泊を希望される方は、宿泊月日、氏名、男女別、年齢をはっきり書いて、一月十日迄に料金を添えお申込下さい。宿泊料は、一泊二食付四、〇〇〇円です。

◎直会旅行会（六日・七日）

乗物　往復全行程大型観光バス
宿泊　静岡県伊東温泉　ホテル聚楽
電話　〇五五七―37―三一六一
費用　小学生以上一人一四、〇〇〇円（六日の中食代、バス代、宿泊料、七日の中食代、記念写真代共）

申込　一月十日迄に氏名、住所、男女別、年齢をはっきり書いて、料金添えお申込下さい。申込順に受付けて一月十日又はその前でも一〇〇名に達したとき締切ります。

◎コース　二月六日（火）慰霊祭、総会、現地墓参報告会を終了した時刻（〇時半の予定）にバスは靖国神社境内を出発します。

昼食弁当、お茶、果物等は例年通り積込んでおきます。首都高速、東名高速厚木道路を小田原に出て、真鶴道路・ビーチラインを海を左に見乍ら熱海経由伊東に向います。ホテル到着は午後4時半と予定しております。

二月七日（水）　午前九時半ホテル出発、亀石峠から伊豆スカイラインを富士山に向って、十国峠、箱根に到り箱根園で昼食、仙石原、御殿場、東名高速道路を東京に帰ります。東京駅着は午後六時と予定しております。バスは東京駅から九段会館宿泊部玄関までまいります。

今年の直会旅行は岡野・荒木両幹事がお世話いたします。福引なども準備しております。御期待下さい。

懇談会出席者

（13頁より続く）

◇ウォッビからマロエラップに行く時台風の卵の中にまきこまれ、20日の夜の入港の予定が21日の朝になり心配をかけた。舟は200トン位のコプラ集貨船で今にも沈みそうになり、覚悟をきめて夜中に身の廻りの物を整理しすっかり身仕度をした者もいた。

◇暑さ、重油のにおい、コプラの醗酵したにおい、舟のガブリ、これらを一つにした状態は一生忘れられない。

昭和42年に半年がかりで同じ地域を行動した浮田さん、佐竹さんの御苦労がよくわかった。

◇荒天の中の船橋や甲板で真剣なまなざしで働いている船員が頼しく見え、その姿が今も眼に残っている。

◇暑くて寝室ではねられないのでデッキの片隅で寝た。浮田さんの助言で、エアーマットを持参して助かった。

◇マジュロで、山村さん達の招待をうけ、大層親切にして頂いて嬉しかった

◇クェゼリンの基地と慰霊碑がきれいに清掃されていた。奉仕をして下さっている方々のお気持がありがたい。

イバイのホテルを予約しておいたが、船酔い等のため上陸できず、大里さんや徳原さんのお骨折りでクェゼリンに泊めていただいた。

◇ギルバート班は、クェゼリン班のような苦労はなく、順調だった。激戦地ベシオ島とバイリキの間を陸つづきにする工事が行われており、その折発掘された日本人の遺骨4体を受領して、慰霊公園で日本の丸を掲げ追悼式を行い、その場で焼骨した。

◇現地の人々は私を、ワタクシと発音して、ワタシとはいわない。正しい日本語が、内南洋に残っていた。マキンのブタリタリ島で島民が「君が代」を歌ってくれたのは感激であった。

◇洋上慰霊の折、無人島に先発隊として上陸したが、潮の流れが速く危険を感じたので、本船に後続の上陸を取やめるよう合図をしたが通じなくて困った。手旗信号が使えたらと思った。

ブラウン環礁（別名エニウエトク環礁）の遺骨収集が中止となった顛末

事務局

昨53年は政府主催でブラウン環礁の遺骨収集を行うため民間協力者として参加を希望する者を求められたので環礁29号で紹介した。これによって私を含め10名の応募者を得た。政府はこれに政府職員等を加え、約20名の団員を組織し九月中旬実施すべく六月から外交接渉をはじめ、我々はその日を待った。

ところが8月末頃からビキニ環礁の放射能残存により島民を他島に再疎開ということが報道され、九月に入りブラウン環礁にも同じ問題のあることが報道された。

即ちビキニ環礁での原爆実験のことは昭和28年頃から日本にもしらされていたが、ブラウン島のことはしられていなかった。

それによるとブラウン島には昭和23年頃からビキニに倍する43回の原爆実験が行われ、ルーニット島には18発も行われた由である。ビキニ環礁もあるのでルーニット島は52年5月頃から放射能除去作業をはじめ大部進捗し、あとエンチャビ島など作業をすすめているらしい。この環礁でとれるヤシ、バナナ等の果実類、魚も絶対口にしないよう厳命されている。エンチャビ島の汚染された土砂は地下1米20センチまではぎとられてあるなどの記事を散見する。

前記のとおり環礁の北半分は近寄ることは無理としても、メリレン島、ブラウン島なら遺骨収集、せめて慰霊だけでも出来ないものか。

それとは知らず10月6日遺骨収集出発前最後の打合せの席上「昨夜米国からの電報で遺憾ながら今回の申入れは受けいれられない」と伝達されたとき啞然とした。厚生省自身大きなショックであると同時に我々も残念であった。

政府の立場で何とか来年3月末までに実現するよう接渉するといって下さった。私等10人は既にパスポートも用意し、その機を待っている今日此頃である。

（浮田）

寄付者芳名

（六六名）

本欄に掲載の会員各位は、年度会費御完納の上の御寄付であり本会運営上寄与するところ多く役職員一同いつも感謝申し上げているところであります。特に近年の公共料金の上昇、これに伴い諸物価の上昇によって本会も昨53年から年額二千円となってまいりました。本部でも一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう留意いたしますので今後共御協力いただき度御礼と共に御願い申します。

（昭和53年6月1日から昭和53年10月31日までに入金の分）

寄付額　芳名（敬称略）

篤志会員その他

二〇〇〇　松岡　実殿
一〇〇〇〇　香月　正紀殿
一〇〇〇〇　島根　宏明殿
〃　中島　剛殿
八〇〇〇　井上　義夫殿
二〇〇〇　小賀阪四郎殿
〃　珊瑚会殿
〃　小林　重雄殿
〃　長谷川　博殿
〃　古木　秀策殿
一〇〇〇　進藤　進殿
〃　城家平太郎殿

◇北海道

一〇〇〇〇　父　三関　武治
六〇〇〇　兄　田村賢治郎
五〇〇〇　母　金子　きよ

◇青森県

三〇〇〇　兄　池田　精治
五〇〇　母　葛西スエコ

◇秋田県

一〇〇〇　妻　小前　ミヤ

◇山形県

訂正　前回寄附者芳名中大野美津子は大場美津子の誤りです謹んで訂正いたします。

◇福島県

二五〇〇　母　堺　ヤキ
二〇〇〇　兄　三浦　一郎

◇栃木県

一〇〇〇〇　妻　大橋　サク
二〇〇〇　弟　笹沼　昌雄

◇東京都

一〇〇〇〇　姉　伊藤　はや
〃　妻　佐竹　エス
〃　弟　土岐　達雄
〃　匿名
八七五〇　母　林　春千代
七〇〇〇　弟　田中　猛
三〇〇〇　弟　柴崎　理喜
〃　兄　小池　勇二
〃　助川与富子

◇神奈川県

一八〇〇〇　妻　山本　和子
一〇〇〇〇　姉　大槻とき子
〃　姪　大槻　良子
三〇〇〇　吉永　梅子
一〇〇〇　妻　落合　てふ
〃　姉　市川八重子

◇新潟県

五〇〇〇　弟　近藤　茂
三〇〇〇　姉　飯島みさを
一〇〇〇　母　後藤　キヨ

◇石川県

一〇〇〇　妻　前田　ナカ
四〇〇〇　妻　三納　初子
一〇〇〇　弟　岡田　松次

◇長野県

一〇〇〇　兄　勝野仁一郎

◇岐阜県

三〇〇〇　妻　山田　八重

◇静岡県

一〇〇〇　妹　石川　みち

◇愛知県

五〇〇〇　兄　山本彦右衛門
一〇〇〇　兄　川村　正一

◇京都府

三〇〇〇　妹　滋岡キヌエ

◇鳥取県

八〇〇〇　藤原　照子
四〇〇〇　妹　井上　照美

◇岡山県

三〇〇〇　姉　金子ミサヲ

◇山口県

三〇〇〇　妻　内富みつゑ

◇香川県

一〇〇〇　長男　秋山　正清
〃　母　奥田　マス

◇広島県

二〇〇〇　父　中山　道源
一〇〇〇　妻　大上八重子

◇愛媛県

一〇〇〇　母　西　サクノ
五〇〇　姉　山本　峯子

◇福岡県

一〇〇〇　妻　森　キヨ子

◇佐賀県

三〇〇〇　母　大串　キサ

◇長崎県

三〇〇〇　兄　小川　直衛
〃　妻　林　文枝

◇熊本県

三〇〇〇　妹　村上佳寿子

◇宮崎県

三〇〇〇　母　土工あぐり

◇鹿児島県

一〇〇〇　弟　出花　利文

グーンと近くなった！ マーシャル群島

日本本土とマーシャル群島間の交通は長い間船だけの時代が続きましたがコンチネンタル航空の定期便（ハワイ、マジュロ、クェゼリン、サイパン）が出来て以来、私共も容易に行けるようになりました。

昨年11月16日から四便に増便されて、マーシャル群島が一段と近くなりました。

一つの朗報としてお知らせ致します

コンチネンタル航空（53.11.16 改正）

往	毎日	東京発	09：30	往	木曜日便	サイパン発	15：15
		サイパン着	14：30			クェゼリン着	22：09
		但し木曜の便はサイパンから乗換へなくクェゼリン，マジュロへ行きます				クェゼリン発	22：34
						マジュロ着	23：17
	月・水・土	サイパン発	08：30	復	日・火・木・金	マジュロ発	11：09
		クェゼリン着	16：34			クェゼリン着	11：51
		クェゼリン発	17：04			クェゼリン発	12：16
		マジュロ着	18：17			東京着	19：45

航空運賃（往復）東京−マジュロ 168,800円　東京−クェゼリン 144,300円
往復共 サイパン，グアム，トラック，ポナペ，クェゼリンに着陸する。

事務局だより

○本会篤志会員松平永芳氏が、靖国神社第六代宮司に就任

環礁29号で報道のとおり、去る3月20日急逝された筑波宮司の後任に七月一日付松平永芳氏が就任された。新宮司は大正4年子爵松平慶民の嫡男として出生、幕末維新の時、越前福井藩の明君として国事に尽力した松平春嶽公の嫡孫に当る。昭和12年海軍機関学校卒業。海軍士官として従軍、海軍少佐。第11特別根拠地隊参謀としてサイゴンで終戦を迎え、戦後は陸上自衛隊に勤務、戦史室に於て陸海軍の記録の収集、整理に従事、本会創立当時発行した、戦史「クェゼリン島の今と昔」中「クェゼリン島の防衛戦」は氏の執筆によるものである。

○新篤志会員紹介

長期に亘り御指導御協力下さった西村祐造様と横溝幸四郎様は何れも後進に道をゆづられて厚生省を退職されましたが、今後も従来同様篤志会員として御指導をお願いいたしましたところ御快諾いただきました。御礼を申し上げ御紹介申し上げます。

なお、西村様のあとは森山喜久雄様が、横溝様のあとは石井清様が後任として厚生省課長に御就任になりました。西村様、横溝様と同様篤志会員としても御指導いただきたくお願いいたしましたところ御快諾下さいましたので御紹介いたします。

○戦記シリーズの休載

本号を現地墓参特集号としたため戦記シリーズは休載しました。

謹賀新年

昭和五十四年元旦

◎本会役員及び篤志会員

名誉会長	朝香鳩彦	篤志会員	石井清
相談役	朝香孚彦	篤志会員	板垣徹
会長	浮田信家	篤志会員	大野克一
副会長	佐藤宗丕	篤志会員	嘉村栄
常任幹事	井上賀雄	篤志会員	木ノ下甫
常任幹事	佐竹エス	篤志会員	ケイス・エス
常任幹事	荒木常子	篤志会員	ウィリアム
幹事	秋山正清	篤志会員	ジョン・ウィリー
幹事	宇田川ヒサ	篤志会員	瀬沼光久
幹事	岡野正文	篤志会員	千葉秀夫
幹事	片山計	篤志会員	土屋太郎
幹事	木下満子	篤志会員	徳原勇
幹事	木村久子	篤志会員	同徳子
幹事	国松ふみ江	篤志会員	中島昌彦
幹事	小泉文江	篤志会員	中田虎一
幹事	柴崎晃	篤志会員	西村祐造
幹事	高橋功	篤志会員	成田喜代治
幹事	高橋鎮夫	篤志会員	長谷川栄次
幹事	高林芳夫	篤志会員	長谷川敏
幹事	土岐達雄	篤志会員	林幸芳市
幹事	橋口昭利	篤志会員	松平永志
幹事	山浦信子	篤志会員	村岡喜達
幹事	末広正男	篤志会員	森山久雄
監事	大高吉郎	篤志会員	横溝幸四郎
監事	昼間楽平	篤志会員	安藤サヨ
監事		篤志会員	白鳥悦子
		篤志会員	木本光江

本部
郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話（東京）四二四−四三〇〇番